

## [005]南鮮演習林植物調査

初島, 住彦  
九州帝国大学助手

<https://doi.org/10.15017/14204>

---

出版情報 : 九州帝国大学農学部演習林報告. 5, pp.1-281, 1934-03. 九州大学農学部附属演習林  
バージョン :  
権利関係 :

の弊著しき地にては進行することなく 稍々安定を保ち 一種の生物的極盛相にあるもの多し。

## 2. シデ類、カヘデ類、ナラ類、シラジ類を主とする群叢

(*Carpinus Tschonoskii*, *Carpinus laxiflora*, *Quercus serrata*)  
(*Acer Mono*, *Acer mandshuricum*, *Fraxinus mandshurica*) Association

本群叢は大約海拔 500 米以上 1100 米附近迄の間に見られシデ類としてはイヌシデ、アカシデ、サハシデ、ナラ類としてはコナラ、カヘデ類としてはイタヤカヘデ、マンシウカヘデ、シラジ類としてはヤチダモ 最も優勢を占め 通常谷間に於て良好なる發達を示す。本群叢の上部限界即ち 1100 米附近にてはコナラに代りテウセンミヅナラ多くテウセンミヅナラ群叢への推移帯を示す。

## 3. テウセンミヅナラ群叢

*Quercus mongolica* var. *mandshurica* Association

本群叢は上記群叢の上方に現はれ約 1400 米附近迄上昇す。本群叢はテウセンミヅナラ壓倒的に優勢を占め シベリアハンノキ、アムールシナノキ、テウセンハウチハ等散生するに過ぎず灌木層にてはテウセンキハギ、エゾヤマハギの二種極めて優勢にしてツノハシバミ、サハフタギ等散生するに過ぎず故に本群叢はテウセンミヅナラ—テウセンキハギ、テウセンヤマハギ群叢 (*Quercus mongolica* var. *mandshurica*—*Lespedeza Maximowiczii*, *L. bicolor*) Association と稱せば尙明確なり。本群叢も上部に於ては漸次カバ類を混生すると同時にハギ類の減少するを見る。

## 4. サイシウモミ群叢

*Abies koreana* Association

本群叢は上記テウセンミヅナラ群叢の上方に現はれサイシウモミ 最も優勢にして針葉樹としてはエゾマツ、濶葉樹としてはエゾノダケカンバ、テウセンミヅナラを混生する型なり。詳細は植生概説並に植生圖参照。

### (四) 分布上注意すべき植物並に新植物

*Cornopteris crenulato-serrulata* (Makino) Nakai in Tokyo Bot. Mag. XLV.  
(1931) p. 95

syn. *Dryopteris crenulato-serrulata* Christensen, Ind. Filic. (1905) p. 259

ハコネシケチシダ

本種は北海道、本州中部に産し朝鮮には初発見ならん。七佛庵上方の谷間に採集す（本種の鑑定は田川基二氏に依る）。

**Selaginella Rossi** Warburg, Monsunia. I. (1900) p. 101

イハクラマゴケ

本演習林内海拔 1300 米附近の峯通りの乾燥する岩面に着生し稀なり。従來の分布は朝鮮中部以北、滿洲、支那北部等にして本演習林は明に南限をなす。

**Betula chinensis** Maximowicz form. **linearisquama** Hatusima, form. nov.

チイサンカンバ（新稱）

基本種の従來の分布は本州中部、朝鮮中部以北、滿洲、支那北部等なり。本品種の果實の苞は線形にして三裂せざるを特徴とす。細石方面海拔約 1300 米附近の森林内に只一本を見出せり。

**Corylopsis Gotoana** Makino in Tokyo Bot. Mag. XV. (1901) p. 111

カウヤミヅキ

本屬は朝鮮には産せざるものと考へられしが本演習林内に発見することを得たり（植生圖參照）。本種の従來の産地は近畿、木曾、越前等にして略同緯度に位する智異山麓に産するは下記のコハクウンボク並に最近本山麓の一角を占むる東大演習林に於て猪熊泰三氏により発見せられたるキレンゲショウマと共に日本西南分子の現はれとして注目に値す。尙本種は馬山方面にも分布するものの如し。

**Cardamine Fauriei** Franchet in Bull. Soc. Phil. Paris Ser. 7, tom.

XII. (1888) p. 85

アイヌワサビ

従來の産地は北海道、樺太、ダフリカ、黒龍江流域、沿海州、朝鮮北部等にして今回本演習林内に発見す。恐らく本種の南限なるべし。

**Acer tegmentosum** Maximowicz in Bull. Acad. St.-Pétersb. XV. (1856) p. 125

マンシウウリハダ

従來の産地は朝鮮中部以北なるも本演習林内海拔 1400 米附近の森林内に採集す。恐らく南限なるべし。

**Styrax Shiraiana** Makino in Tokyo Bot. Mag. XII. (1898) p. 50

コハクウンボク

本種は従來本州中部以南、四國、九州の特産なりと考へられしが本演習林内海拔 1400 米附近の森林内に三本を見出せり分布上珍とするに足る。

**Viburnum erosum** Thunberg subsp. **stipellatum** (Nakai) comb. nov.

syn. *Viburnum Wrightii* Miquel var. *stipellatum* Nakai, Fl. Korea I. (1909) p. 287 et Fl. Sylv. Korea. XI. (1921) p. 41. Tab. XI. b.

*Viburnum Wrightii* Miquel var. *minus* Nakai, Trees & Shrubs Jap. I. ed. 2. (1927) p. 605, **syn. nov.**

ヲウセンミヤマガマズミ、ミヤマコバノガマズミ (新稱)

本植物は著者久しき以前より疑問とせしものにして今回演習林産を見るに及び確信を得たり。本亞種は 1909 年中井博士により内山富次郎氏の金剛山採集品に基きミヤマガマズミの變種として發表せられしも本植物はコバノガマズミの星狀毛の全然消失せる極端品にして之等の中間型は往々見る所なり。又宿存性の托葉を有し鋸齒はミヤマガマズミの如く尖らず葉は通常小さく花序又稍々小形なる等の諸點よりしてコバノガマズミの亞種或ひは全然獨立種として考ふる方適當なるべし。又北九州に産すると稱せらるゝ上記異名をなすコミヤマガマズミは未だ type を見ざるも恐らく本亞種と同一物ならんと思惟す。本亞種は著者九州にては豊後 (祖母山)、筑後 (御前岳)、筑前 (脊振山) に得たり。朝鮮にては本演習林以外金剛山に分布す。

**Viburnum pauciflorum** Rafinesque-Schmalz ex Pylaie in Torr. et Gr., Fl. N. Am. II (1841) p. 17

syn. *Viburnum koreanum* Nakai, Fl. Sylv. Korea. XI. (1921) p. 43, Tab. XIII

## ヒロハガマズミ

本種はカンボク節に屬する珍種にして朝鮮北部、アジア東部、北部並に北米に分布す。中井博士は朝鮮産は大陸産に比し雄蕊短かく漿果は大形にして核は背面に廣き溝ある等の特徴より別種なりと考定せられしも之等の特徴は個體的の差別に外ならず。本演習林にては天王峯の頂上附近にエゾノダケカンバと混生し極めて稀なり。

**Trientalis europaea** Linnaeus var. **arctica** Ledebour, Fl. Ross. III.  
(1846-51) p. 25

コツマトリサウ

従來朝鮮にては金剛山迄知られし大陸分子にして本演習林内天王峯の頂上附近にて採集せり恐らく本變種の南限なるべし。

**Broussonetia papyrifera** Ventenat var. **lucida** Hatusima, var. nov.

テリハカヂノキ (新稱)

本變種の葉は深綠色を呈し葉面光澤あるを特徴とす。

**Benzoin Thunbergii** Siebold et Zuccarini var. **macrophyllum** Hatusima,  
var. nov.

オホバカナクキノキ (新稱)

本變種は果枝に於て葉長十七糎内外、幅四、八糎内外に達し基本種に比し著しく大形なり。水原高等農林學校助教授山田藤吾氏伽倻山に採集し著者又演習林内に得たり。

**Aconitum austro-koreense** Koidzumi, sp. nov.

ウスギトリカブト (新稱)

本種の葉はスグリの如く花は完全に開花せる時にも黄綠色を呈し先端微かに淡紫色を呈する珍種にして海拔 400 米附近の大源寺の谷に得たり。小泉博士鑑定の結果新種なること判明せり。歐文記載は追て發表あるはず。

**Viola japonica** Langsdorf var. **variegata** Hatusima, var. nov.

フイリコスミレ (新稱)

葉に白斑あるを特徴とす。著者近時九州筑前浮嶽に採集せり。

**Polygonatum inflatum** Komarov var. **rotundifolium** Hatusima, var. nov.

マルバミドリヤウラク (新稱)

葉は極めて圓さを特徴とす。基本種と混生し稀なり。

**Orchis cyclochila** Maximowicz var. **albiflora** Hatusima, var. nov.

シロバナカモメラン (新稱)

花は純白色にして唇瓣に紫色の斑點を缺ぐを異點とす。天王峯の頂上附近に得たり。

## (五) 利用上注意すべき植物

**Abies koreana** Wilson      サイシウモミ

本演習林海抜 1200 米内外の峯筋の森林に多く直径 30 糎以上に達するもの稀にして 20 糎内外のもの極めて多し。往々タウシラベと混同せらるゝも葉は短かく肥厚するを以て直に區別することを得。分布は極めて狭く慶南 (加智山)、全南 (徳裕山)、濟州島の羅漢山に限らる。本種は本演習林の高地に於ける造林樹種としてエゾマツと共に極めて重要なるものなり。

**Picea jezoensis** Carrière      エゾマツ

本種は前者と混淆し蓄積よりすれば前者に劣るも高地森林の林地保護上前者と共に極めて重要なる樹種なり。本種も前者と混淆し造林するときは本山稔の 1000 米以上の地域にて成林の見込ありと信ず。

**Pinus koraiensis** Siebold      テウセンマツ

海拔 1200-1300 米の森林内に散在し純林をなすことなし。蓄積よりすれば極めて少さも將來他の樹種と混淆し造林せば或る程度迄成林の見込ありと信ず。

**Acer mandshuricum** Maximowicz      マンシウカヘデ

演習林内に於てイタヤカヘデと共に極めて普通にして種々の器具製作用に使用せ